

第4回文楽観賞会の実施報告

4回目となる「文楽鑑賞会」を、10月10日（金）に開催致しました。

今回は、2025大阪・関西万博開催記念『令和7年爽秋文楽特別公演』として開催され、『曾根崎心中』を、参加者11名で鑑賞しました。

文楽は、太夫・三味線・人形遣いの「三業」で成り立つ三位一体の演芸で、男性によって演じられます。客席の上手側に張りだした演奏用の場所「床」で、太夫と三味線弾きが、浄瑠璃を演奏します。今回の座席も、「床」の近くであったため、大夫の語りを間近で見ることが出来ました。



『曾根崎心中』は、実際に起こった心中事件を題材として、人形浄瑠璃のために近松門左衛門が1703年に書き下ろした作品です。

見どころは、天満屋の段で、19歳の天満屋お初が25歳の手代徳兵衛に心中の覚悟を聞く場面です。最近大きな話題となっている映画『国宝』の中でも演じられています。物語の進行役の太夫による語りと、人形ならではの繊細な表現で、文楽としての『曾根崎心中』を楽しむことが出来ました。

会員参加者

天羽將恵さん、入田泰壽さん、酒本 猛さん、友國健司さん、東端幸雄さん、吉田達司

（報告：吉田）

